

神戸・新長田の街の変貌

写真左は朝日新聞 1 月 16 日夕刊。1995 年 1 月 17 日と 18 日の神戸市長田区。右は 15 日夕刊。阪神高速の南側に建てられた再開発ビルの「アスタくにづか」。ビルに挟まれたアーケード部分が大正筋商店街(写真中央下)。付近には 40 棟を超える再開発ビルやマンションが林立する。

阪神・淡路大震災のあと、長田の街の一部を定点観測してきた。写真のように、新長田周辺の街の変貌は、とりわけ激しいものがある。2015 年 1 月 22 日レポート「神戸市・新長田を歩く」を抜粋して紹介したい。写真はその 2 年ほど前に撮ったものである。



朝日新聞 1 月 12 日に「佐伯一麦さんと歩く神戸・長田区」という特集記事がある。レポートでも何回か紹介してきたように、わたしも長田の街をよく歩いてきた。写真は 2 年ほど前に撮った神戸市・新長田の大正筋商店街である。

高層マンションが立ち並び、デッキで結ばれた商店街が連なる。とりわけ 2 階はシャッターの閉まった店舗ばかりが目につく。ドキュメント番組で「復興災害」だと、神戸市に怒りをぶつける住民の声が思い起こされる。

佐伯さんの記事に次のように書かれている。

20 年前、辺りは多くが木造の戦前から続く商店街だった。だが震災直後に起きた火災に包まれ、大半の店は焼け落ち

た。そのわずか 2 ヶ月後、市は復興計画をつくった。再開発は市の念願だった。2710 億円を投じる復興事業「アスタ新長田」。説明資料には《21 世紀の神戸の発展の核とすべく、神戸市が全力をあげて再開発に取り組んでいます》とある。

商店街はシャッターが下りた店が目立つ。「ご愛顧ありがとうございました」と店頭に掲げる衣料品店もある。うどん屋の男性がぼやいていた。「前は年寄りが住みやすかったん。でもマンションになって人が減った。昔は店がすし詰め路地に、人が行き来しとったのに。再開発は失敗だったんやろ。下町の根っこごと持ってかれてしもうた」

佐伯さんは「都会の郊外には、どこにでもあるような街並みだよ」と街を見上げた。「慣れない高層マンション暮らしは、年寄りにはきつい。ここで生きてきた人の再建を妨げるよね」と漏らす。

街の変貌は、復興や再開発の意味を問いかけている。新長田にまた行ってみよう。

(2020 年 1 月 18 日)

